

研究課題名：慢性好酸球性肺炎における肺機能低下予測因子の同定

研究期間：西暦 2015 年 10 月 1 日～2017 年 9 月 30 日まで

対象材料：

■ 診療録 2000 年 1 月～2015 年 9 月までに慢性好酸球性肺炎と診断された症例

意義、目的：

慢性好酸球性肺炎は末梢気道から肺胞領域への強い好酸球浸潤を特徴とする原因不明の呼吸器疾患である。ステロイド治療への反応は良好とされるが、約半数はステロイド漸減中に再発を繰り返す難治例である。難治例では繰り返す再発により肺の線維化を生じ、呼吸不全に準じるほどの肺機能の低下を惹起する。これまで慢性好酸球性肺炎の治療に関して、前向き研究によって評価された治療法はなかったが、近年我々は 3 ヶ月間の短期ステロイド投与と 6 ヶ月間の長期ステロイド投与を前向き比較して、短期ステロイド投与の有用性を報告した。しかし、この研究においても 50%を超える症例がステロイド漸減中に再発していた。そのため、これらの難治例では長期的な肺機能低下が懸念されるが、肺機能の低下を予測する因子は明らかになっていない。本研究は、慢性好酸球性肺炎における肺機能予測因子を明らかにします。

方法

本研究は、2000 年 1 月～2015 年 9 月までに診断された慢性好酸球性肺炎と診断された患者の肺機能および臨床検査値を検討し、肺機能予測因子を検討します。

通常診療で実施された治療に対する解析研究であり、新たな有害事象、健康被害や不利益は生じません。また、診療記録や抽出情報は厳重に管理し、論文発表などの際にも個人情報やプライバシーは保全致します。

問い合わせ・苦情等の窓口：

浜松医科大学 内科学第二講座（呼吸器内科）： 鈴木勇三 053-435-2263